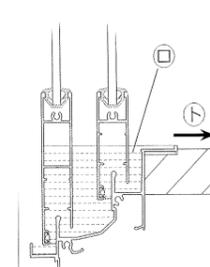


項目	Q	A
結露	窓改修をおこなったら結露がひどくなった 窓改修をおこなったら、壁等が結露するようになった 複層ガラスの窓に改修したが、ガラスが結露する	<p>結露について</p> <p>窓ガラスやサッシ枠に結露が発生した場合、床や壁の汚損防止と木部の腐食防止のために、こまめに拭き取ってください。</p> <p>結露は、室内外の温度差が大きく室内の湿度が高い場合に、自然現象として季節を問わず発生するものであり、サッシの不具合ではありません。室内の環境条件によっては、二重ガラス（複層ガラス）を使用している場合でも、断熱サッシを使用している場合でも、結露が発生する場合があります。むしろ、ガラスやサッシ枠に結露が生じることは、押し入れの中やたんすの裏側のような目に見えない部分に発生する結露よりも対処しやすいといえます。</p> <p>一般的には、秋、冬の季節は暖房により結露が発生しやすく、乾燥防止のために加湿器をご使用の場合は、さらに結露が発生しやすい状況になります。特に、新築の家では、使用した木材などの建材に水分が多く含まれているため、</p> <p>冬の暖房時に、地域によっては乾燥しやすい時期に、その水分が放出しやすい室内環境になると、結露が発生しやすくなります。また、睡眠中に人の呼吸などにより発散する水分が結露の原因にもなるといわれております。寝室での換気に心がけてください。</p> <p>結露を完全に無くすることはできませんが、できるだけ抑える方法として、次のようなことを励行してください。</p> <p>結露を予防するポイント</p> <ul style="list-style-type: none"> ・寝室に限らず居室の換気をこまめに行い、水分を含んだ室内の空気を排出すること。 ・室内で洗濯物を干さないこと。 ・灯油ストーブは完全燃焼すると水分を生成します。できるだけ使用を控えること。 ・ストーブの上でやかんの湯を沸かさず、湯を沸かさないこと。 <p>外気温と室温の差、湿度の関係によって結露が発生する</p>
保証	サッシの保証期間を教えてください サッシの保証内容を教えてください	<p>■保証期間</p> <p>建築会社様よりの引き渡し日（注1、注2）から2年間（電装部品については1年間）。ただし、商品からの雨水浸入については10年間。</p> <p>（注1）改修工事の場合は、改修部分の工事完了の日とします。</p> <p>（注2）分譲住宅（建売住宅）・分譲マンションの場合は、建築主様への引き渡しの日とします。</p> <p>■保証内容</p> <p>取り扱い説明書、本体ラベル又はその他の注意書きに基づく適正なご使用状態で、保証期間内に不具合が発生した場合には、下記に例示する免責事項を除き無料修理いたします。</p> <p>なお、強風雨等により、サッシ下枠に雨水がたまる場合がありますが、これは商品上の特性であり不具合ではありません。不具合といえる雨水浸入は、サッシ下枠を越えて室内に雨水が流れ出たり、あふれ出たりすることです（詳細は取り扱い説明書__頁をご参照ください）。</p>
表面処理	アルミサッシの表面に白いぼく粉がふいた状態になりました	<p>建物の外壁面は経年により表面が白っぽくなる場合があります。ドア・引戸も同様に塗装の劣化が進行し、表面が次第に粉状になり、白っぽく粉をふいたような状態になる場合があります。これを白亜化現象（チョーキング）と言います。</p> <p>白亜化現象の原因は、太陽の紫外線、熱、雨水、空気中の化学物質などによるものです。塗装の膜は有機化合物でできているため、これらに長期間さらされることで、表面から少しずつ分解されてきますが、その程度によって上記のような劣化による外観変化が目立ってきて白っぽくなります。</p> <p>この現象は、ドア・引戸に限らず表面を塗装している商品であれば、どんな塗装でも起きますが、周りの環境やお手入れの仕方によって進行度合いが大きく変わってくるため、こまめに商品の表面に付着した汚れをお手入れいただくことが経年劣化の進行を遅らせる上では大切です。</p>
遮音	窓から入ってくる音がうるさいので、何とかした カバー工法で改修したが、施工前と変わらない	<p>カバー工法で防音サッシに取り換えることをお勧めします。その際、ガラスを防音合わせガラスにするとより効果的です。</p> <p>障子のガタツキがないかご確認ください。ガタツキがある場合は各社のHPに調整方法が掲載されていますのでそれに基づき調整していただくか、各社のお客さま相談センターにお問い合わせください。</p>
気密	カバー工法で改修したが、すき間風がはいる	<p>引違い窓は、障子の全開時にそのすき間をふさぐために、枠や障子にパッキンなどの気密部品を取り付けていますが、風が吹くと室内外に気圧差が生じてこの気密部品の接触部分から空気が出入りし、すき間風となります。このすき間風を規制する性能を気密性能といいます。</p> <p>従って、引違い窓の気密性能は、枠と障子の接触部分から出入りする空気の量で示します。この出入りする空気の量が少ないほど性能が良いといえますが、日本工業規格（JIS）では、この空気の出入りを認めたものになっており、空気の出入りを遮断しなければならぬことを規定してはおりません。</p> <p>例えば、住宅用引違い窓の気密性能は、一般にA-3等級またはA-4等級に該当します。A-3等級で定められている空気の出入りする量は、サッシ1㎡当たり1時間に8㎡以下であり、またA-4等級では2㎡以下となっており、A-4等級の性能が良いことになります。</p> <p>すき間風がかなり激しいと感じられる場合、サッシ各部の調整が不十分であることが考えられます。（調整方法については、こちらをご覧ください）</p> <p>なお、換気扇を使用した場合は、強制的に空気を室外に排出することになるので、気密材と枠または障子の接触部分から空気が入ることがあります。</p>
漏水 水密	降雨時にはサッシの下枠に雨水が溜まること があり、漏水ではないか	<p>雨水によって生じる枠外への有害な水の浸入をいいます。</p> <p>サッシ・ドアセットでは連続的な枠外への流れ出し・しぶき・吹き出し及びあふれ出しをいいます。</p> <p>降雨時には右図のようにサッシの下枠に雨水が溜まる場合がありますが、これは商品上の特性であり不具合ではありません。</p> <p>不具合といえる雨水浸入は、サッシ枠を越えて室内に雨水が流れ出たり、あふれ出たりすることです。</p> 
コールド ドラフト	窓の近くにいると冷たい空気が流れてきます。断熱性に劣っている商品でしょうか	<p>冬期の特には夜間では、室外の冷たい空気に冷やされて、窓ガラスの室内側表面が冷たくなる。このため、窓ガラス付近の室内空気も冷やされて、下降気流が生じる。気流は人体の局所的な冷却を引き起こす。このような気流がコールドドラフト。</p> <p>コールドドラフトによる不快感は、気温が低いほど、気流が大きいほど増大する。したがって、室内の温熱環境を快適なものにするには、断熱性能の高い窓ガラスを用いることで、窓付近の気温を下げず、また下降気流の発生を抑えることが重要。</p>